

繊維産業のサステナビリティに関する検討会

1
Establishment
2007

2
Capital
4_{BJPY}

3
Employee
120

4
Factories
2

5
Revenue2020
700_{MJPY}





Fashion Sustainability

服の回収にご参加ください。



BRING
<http://bring.org/>

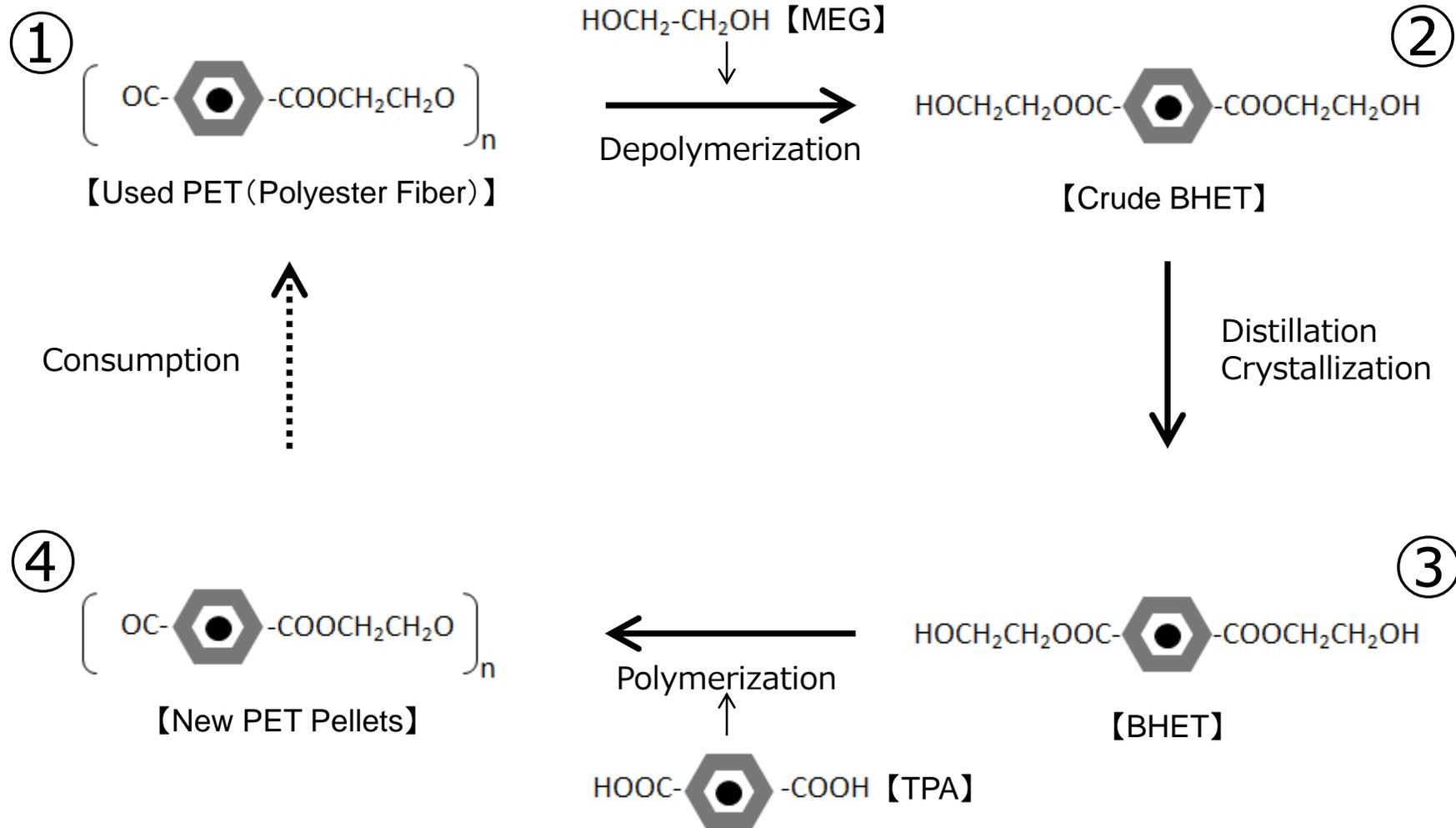
HIDEAWAYS
NICOLE

消費者行動をつくる
Collection

15,000 = 3
T shirt

At a shopping mall, collected
tons clothes waste/event

PET Chemical Recycling Technology



Polyester Recycling Facility

Production capacity: 1,000 ton/year

Launched: December 2017

Textile Recycling





VOGUE
FASHION'S
NIGHT
IN
OCT.23-
NOV.8
2020
TOKYO



VOGUE FASHION'S NIGHT IN 2020
CHARITY ITEMS

BRING

D2C PRODUCTS
June. 2020

<https://bring.org/>



BRING T-shirt Basic

¥4,300



Dress Shirt

¥8,500



DRY Sweat Hooded Pullover

¥9,800



DRY Sweat Pullover

¥8,800



DRY Sweat Zipup Hooded Jacket

¥10,800



Summer Knit T-shirt by
WHOLEGARMENT™

¥8,800



WUNDERWEAR 50/50 70/30

¥3,400から



1. お洋服の店頭回収
2. 服から服への水平リサイクル技術
3. サステイナブルな製品作り

1. 経緯：経産省繊維課の調査事業として検討開始し2010年6月に開始
2. 参加企業数：95社（現在）
3. 回収拠点数：2508拠点（現在）
4. 回収量：400トン/年
5. 店頭回収を実施する事業者の意思とメリット 1. 集客効果 2. 売上促進（高いクーポン使用率）

論点

- リユースのみを前提にした行政回収が行き詰まりつつあるなかで店頭回収を代替策として位置づけるべきかどうか。その場合のコスト負担のあり方について。
- 拡大生産者責任として製造販売した事業者が衣料品の回収義務を負うべきなのか。
- 衣料品の年間排出量（おおよそ120万トン）に対して圧倒的に店頭回収量が少ない。
- 消費者のニーズは高く、サーキュラーエコノミーへの行動変容を促す契機となる。
- 衣料品以外の繊維製品についての回収のニーズも大きい。

1. 店頭回収された衣料品の組成

1. コットン64.4% ポリエステル11.4% ウール6.0% アクリル3.9%
2. 混紡繊維製品87% 単一繊維製品11%

2. リサイクル技術

技術体系	技術内容	年間処理能力	服から服へ	混紡原料対応
メカニカルリサイクル	ウールリサイクル	100トン	○	×
	自動車内装材リサイクル	5万トン	×	△
	ウエスリサイクル	5万トン	×	×
ケミカルリサイクル	ポリエステル	1000トン	○	△
	ナイロン	?	○	×
	コットン	0トン	○	×
	コークス炉化学原料化法	10万トン	×	○

論点

- 処理能力、服から服へ（水平リサイクル）、混紡原料対応が両立するリサイクル技術がない。
- 新規参入を含めてイノベティブな技術開発インセンティブを設計する必要がある。

1. 服から服へのブランド価値

1. 消費者のニーズは変化している。サステナビリティについての認識が拡大し、消費行動に影響しつつある。
2. サステナビリティは必要であるが、それだけで十分ではない

2. 再生原料についての品質基準

1. 樹脂、糸、生地における再生原料の品質基準が明確ではない
2. LCAの基準が明確ではない
3. トレーサビリティについての基準が明確ではない
4. Higg IndexやGRSなどの既存の基準を調査検討する必要がある。

3. サステナビリティの定義と促進策

1. 服から服へ（水平リサイクル）を目指すべき価値とするべきか
2. 水平リサイクルをめざす努力目標を設定するべきか



BRING